

金沢地方裁判所・金沢地方検察庁・金沢弁護士会共同企画

裁判官・検察官・弁護士に インタビュー！



「裁判官」、「検察官」、「弁護士」が扱う仕事がどのようなものか知っていますか？

これら三つの職業は、合わせて「法曹三者」と呼ばれています。

このたびは、法曹三者にインタビューして、いろいろな質問に答えてもらいました！

さあ、どんなお話が聞けるでしょうか？

インタビューに応じてくれるのは・・・

裁判官（裁判官になって3年目）

検察官（検察官になって3年目）

弁護士（弁護士になって10年目）

☆裁判官にインタビュー☆



やあ、みんな！さいたんだよ！

全国の裁判所を旅する妖精なんだ♪

金沢地方裁判所の若松達郎裁判官から聞いてきたこと…

みんなにこっそり教えるね♪

Q. 裁判官は、どんな仕事をしているのですか？



裁判官は、社会生活で市民の間で生じたもめ事をどちらの言い分
が認められるのかを判断したり、話し合いでお互いにゆずり合っ

決することを手助けしたりする仕事をしています。

また、法律では、人に怪我をさせたとか、他の人の物を盗んだなど、罪を犯した場合に、その人に刑罰を与えることとされています。罪を犯したと疑われている人が、本当に罪を犯したのか、犯したとすればどのような罰にするのがよいのか判断をすることも裁判官の仕事です(このような裁判を刑事裁判といいます。)。刑事裁判には裁判員裁判という制度がありますが、皆さんが大人になったら、裁判官と一緒に刑事裁判に加わって、このような判断に関わることもあります。

このように、裁判官には、社会で起きるもめ事に対して、中立的な立場で公平公正に判断をすることが求められています。

Q. どんなバッジをつけていますか？バッジの意味を教えてください！



裁判官のバッジは、日本神話の「三種の神器」の1つである「八咫の鏡」をモチーフにしており、中心には裁判所の「裁」の字が書かれています。鏡が清らかでくもりなく真実を映し出す様から、裁判の公正さを象徴するものと言われています。

Q. 仕事でやりがいを感じることは何ですか？



裁判官の仕事は、判断した内容によって、人の人生を左右することもある責任の重い仕事です。この結論でよいのか悩むこともありますが、先輩裁判官と判断内容や解決方法について議論したり、裁判の進行をマネジメントしてくれる書記官・事務官と意見を出し合いながら裁判の進め方を検討したりして、もめ事が解決したときに特にやりがいを感じます。

Q. 子供の頃は、どんな勉強（科目）が得意でしたか？



歴史が好きでしたので、社会科が得意でした。

Q. 裁判官になりたいと思ったのはいつ頃ですか？



裁判官や検察官、弁護士になるためには、司法試験という試験に合格した後、1年間の研修が必要となります。その研修期間中に、裁判官が、訴えた人の利益を考えるだけでなく、その訴えられた人の利益、さらに

その判断による社会への影響も考えて、解決に導くことが求められることを学び、異なる立場の人の話や言い分をよく聞いて、裁判でもめ事の解決を求める人の気持ちにも思いを巡らせて、社会でのトラブルを解決に導く仕事に関わってみたいと思い、裁判官を志しました。

Q. 一日のスケジュールを教えてください。



裁判がある日は、裁判の進め方を先輩裁判官や書記官と確認した上で、裁判にのぞみます。裁判では、裁判の当事者(訴えた人や訴えられた人のこと言います。)の言い分を確認したり、当事者や証人の話を聞いたりします。

裁判がない日は、当事者の言い分が書いてある文書やその根拠となる証拠を読んで、裁判の進め方を考えたり、当事者の言い分に対して裁判所の判断内容を示す判決を書いたりしています。

Q. 判決を書くときに難しいと感じるのはどのような時ですか？



判決では、判断を求められていることの結論とともにその理由を書きます。裁判では、訴えた人と訴えられた人の言い分が大きく異なることが少なくありません。そのような場合、どちらの主張を認めることができるのか結論に悩むことはもちろんですが、判決を書く際に、主張が認められなかった当事者にとって、結論に至る理由が納得のいく内容になっているかいつも頭を悩ませています。

裁判を受ける人にとって信頼される裁判所、裁判官であるために、主張が認められなかった当事者の言い分に向き合い、少しでも結論に納得してもらえるような判決を書けるように日々励んでいます。

☆検察官にインタビュー☆



僕は、とびー！威勢の良さが持ち味だよ！

金沢地方検察庁の検察官にインタビューしてきたよ♪

さっそく、みんなに伝えるね♪

Q. 検察官は、どんな仕事をしているのですか？



検察官は、警察から送致された事件について、自らが被疑者や参考

人の取調べを行ったり、警察官を指揮して補充捜査を行ってもらった

りして、自らが主体的に捜査を行い、収集された証拠の内容を十分に検討した上

で、最終的に被疑者を起訴するか否かの処分を決定します。

このように、被疑者を起訴するか否かを決定するのは、検察官だけの権限です。

また、起訴した事件について裁判で立証し、裁判所に適切な判決を求めるのも
検察官の重要な仕事です。

Q. どんなバッジをつけていますか？バッジの意味を教えてください！



検察官のバッジの形は、紅色の旭日(朝日)に菊の白い花びらと
金色の葉があしらわれています。

その形が霜と日差しの組合せに似ていることから、厳正な検察官の職務と理
想像とが相まって「秋霜烈日^{しゅうそうれつじつ}」のバッジと呼ばれることもあります。

「秋霜烈日」とは、秋の冷たい霜と夏の厳しい日差しのことで、刑罰の志操の

厳しさにたとえられています。

Q. 仕事でやりがいを感じることは何ですか？



検察官の仕事には、社会のため、被害者のため、被疑者の更生のために、社会の中で誰かが対処しなければいけない大事な仕事を行っているという使命感や、適正な処分を決定できたときの充実感、達成感があります。

さらに、検察官の仕事では、警察などの関係機関と協力関係を構築し、検察内部の他の検察官や検察事務官の協力を得ながら、また、人から信頼を得て真相解明という目標に向かって進む前向きな仕事であり、日々の仕事のいたるところにやりがいを感じます。

Q. 子供の頃はどんな勉強（科目）が得意でしたか？



保健体育が得意でした。

Q. 検察官になりたいと思ったのはいつ頃ですか？



もともとは弁護士になりたいと思っていましたが、司法試験に合格後、司法修習という研修中に関わった検察官、検察事務官の人柄や、検察組織の明るい雰囲気惹かれ、検察官になりたいと思うようになりました。

Q. 検察庁の雰囲気はどのような雰囲気ですか？



厳しいイメージを持っている人もいますが、職場では、検察官ひとりひとりにパートナーの検察事務官(立会事務官)がいて、仕事の話だけではなく、雑談をしたり、プライベートの話をしたり、とても仲良く働いています。

また、立会事務官の他にも、職場には複数の検察官、検察事務官がおり、いつでも気軽に相談をすることができますし、自分の判断に迷ったときには上司にも気兼ねなく相談ができるので、検察庁の雰囲気は非常に良いです。

☆弁護士にインタビュー☆



金沢の北村勇樹弁護士に突撃インタビュー！

弁護士になって10年目…

どのような話が聞けるのでしょうか！？

Q. 弁護士は、どんな仕事をしているのですか？



弁護士は、社会の中で起こる様々なトラブルを防止したり解決したりするために働いています。多くの弁護士が法律事務所に所属して仕事

をしています。現在では、企業で働く弁護士や国や地方公共団体、国際機関などの職員として働いている人もおり、自分にあった職場や働き方を選ぶことができます。

Q. どんなバッジをつけていますか？バッジの意味を教えてください！



弁護士バッジの表面は、ひまわり草の花の中心部に天秤(はかり)1台を配した装飾がなされており、花卉の部分は金色、中心部地色は銀色となっています。裏面には、「日本弁護士連合会員章」という文字と登録番号が記載されています。

表面のひまわりは正義と自由を、中央の天秤(はかり)は公正と平等を追い求めることを意味していて、「基本的人権を擁護し、社会正義を実現する」という弁護士の使命を象徴しています。

Q. 仕事でやりがいを感じることは何ですか？



全米弁護士会

弁護士は「人を助ける」ことを仕事としています。トラブルを解決することができたときの依頼者の安心した顔を見たり、感謝の言葉を頂いたりしたときに大きな喜びを感じます。また、社会は、企業の経済活動により成り立っている面がありますが、企業が法令を遵守しつつ経済活動を行うようアドバイスし、そうすることで消費者である国民全員の幸福につながる重要な仕事をしている点でもやりがいを感じます。

Q. 子供の頃は、どんな勉強（科目）が得意でしたか？



全米弁護士会

算数・数学や社会(地理・歴史)が得意科目でした。反対に、国語はずっと苦手科目でした。それでも、たくさん本を読んで勉強したことで、今では苦手意識はなくなりました。

Q. 弁護士になりたいと思ったのはいつ頃ですか？



全米弁護士会

大学3年生のときに弁護士を志すようになりました。ちなみに、中学生の頃までは宇宙飛行士に、高校生の頃は国際連合の職員になりたいと思っていました。

Q. なぜ弁護士になりたいと思ったのですか？



全米弁護士会

将来どんな職業に就きたいかを真剣に考え始めたのは、大学生になってからのことでしたが、まずは、「日々の生活の中で人の役に立てる仕事がしたい」と考えるようになりました。そして、「一度きりの人生なので、どうせ

なら、より難しいことに挑戦しよう」と思い、弁護士を志すようになりました。

Q. なぜ悪い人の弁護をするのですか？



警察に逮捕されたり刑事裁判にかけられたりしている人が必ずしも罪を犯したとは限らないからです。真犯人と間違われて警察に捕まったり刑事裁判にかけられたりすることはドラマや小説の世界だけでなく現実にも起きています。ですので、その人の言い分をよく聞いて、もし、本当に悪いことをしていないのであれば、その人の無実を晴らさなければいけません。また、仮に、その人が本当に罪を犯してしまっている場合にも、どうして罪を犯したのか、あるいは、自らが罪を犯したことについて今はどのように考えているのか、といったことを裁判官や裁判員に伝える必要があり、弁護士が弁護人として、その人をしっかりとサポートすることで、適正な裁判が行われ、その人に相当な刑罰が科せられることとなります。